令和8年度

第2回市民力推進委員会

１日　時　令和8年10月5日(月)18時30分～

２場　所　長崎市役所　7階　中会議室

３内　容
（1）市民活動センターの開館時間・休館日変更の検討について
（2）市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて
　　（グループワークを含む）
（3）市民活動支援補助金の審査結果について（報告）

目次

○　はじめに　[10分程度]
・　前回(第1回市民力推進委員会)の振り返り　　…P3
・　市民力推進委員会の今後のスケジュール　　…P4

1．市民活動センターの開館時間・休館日変更の検討について　[30分程度]
　1-1．センターの利用実態　　…P6～11
　1-2．開館日・休館日変更案について　　…P12

2．市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて　[75分程度]
　　…P14～15
　2-1．「5つの重点テーマ」の現状と課題　　…P16,別紙1
　2-2．市民活動の現状　　…P17,別紙2
　2-3．グループワーク　[50分程度]　　…P18～19

3．市民活動支援補助金の審査結果について(報告)　[5分程度]
　　…P21

前回（第1回市民力推進委員会）の振り返り

前回の議題
（1）委員長・副委員長の選出について
（2）審査部会の設置及び部会委員の指名について
（3）市民力向上と協働の推進の方向性について

（3）市民力向上と協働の推進の方向性について

主な意見

● 今後の市民力推進委員会について
- 委員会の位置付けが不明確
- 市民力推進委員会の守備範囲が曖昧
- 委員会の役割・目的の明確化
- 議論の解像度が低い／前に進んでいない
- 全体像・スケジュールが不足
- 議論の座組の再構築
- 定点観測できる柱を作ってはどうか

● 資料・データについて
- 定量化されたデータが不足
- 現状把握が困難
- R4以前の状況も踏まえた変化を示すべき
- マッチングフェアの具体的な実績
- 総合計画（目標値）がない

市民力推進委員会の今後のスケジュール

	R8年			R9年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市民力推進委員会	★第2回市民力推進委員会 （10/5） ・センターの開館時間、休館日変更について ・重点テーマの見直しについて 意見出し			★第3回市民力推進委員会 （1月） ・重点テーマの見直しのまとめ ・今後の市民力推進委員会について		
市民活動センター	▶公の施設管理運営調整委員会を経て「方針の意思決定」 （10月～11月予定）					

長崎市市民活動センター（ランタナ）
現在の指定管理期間：令和5年4月1日～令和10年3月31日

調整委員会での意思決定後（指定管理者制度更新が決定した場合）

⇒ 仕様書・募集要項作成、選定審査会設置

R9年夏ごろ：公募開始（予定）

R9年秋ごろ：指定管理候補者決定（予定）

目次

○　はじめに　[10分程度]
・　前回(第1回市民力推進委員会)の振り返り　…P3
・　市民力推進委員会の今後のスケジュール　…P4

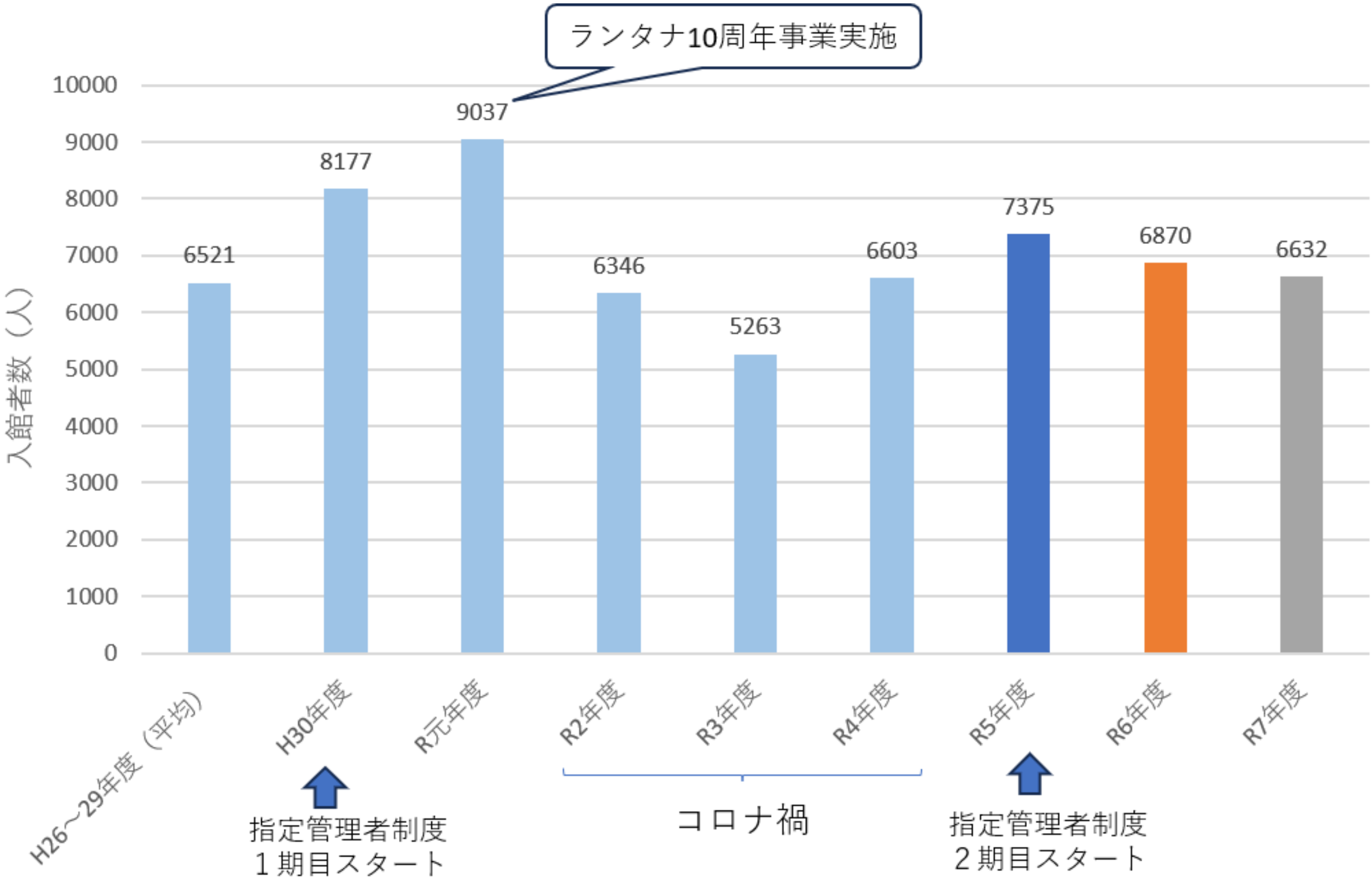
1．市民活動センターの開館時間･休館日変更の検討について　[30分程度]
1-1．センターの利用実態　…P6～11
1-2．開館日･休館日変更案について　…P12

2．市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて　[75分程度]
…P14～15
2-1．「5つの重点テーマ」の現状と課題　…P16,別紙1
2-2．市民活動の現状　…P17,別紙2
2-3．グループワーク　[50分程度]　…P18～19

3．市民活動支援補助金の審査結果について(報告)　[5分程度]
…P21

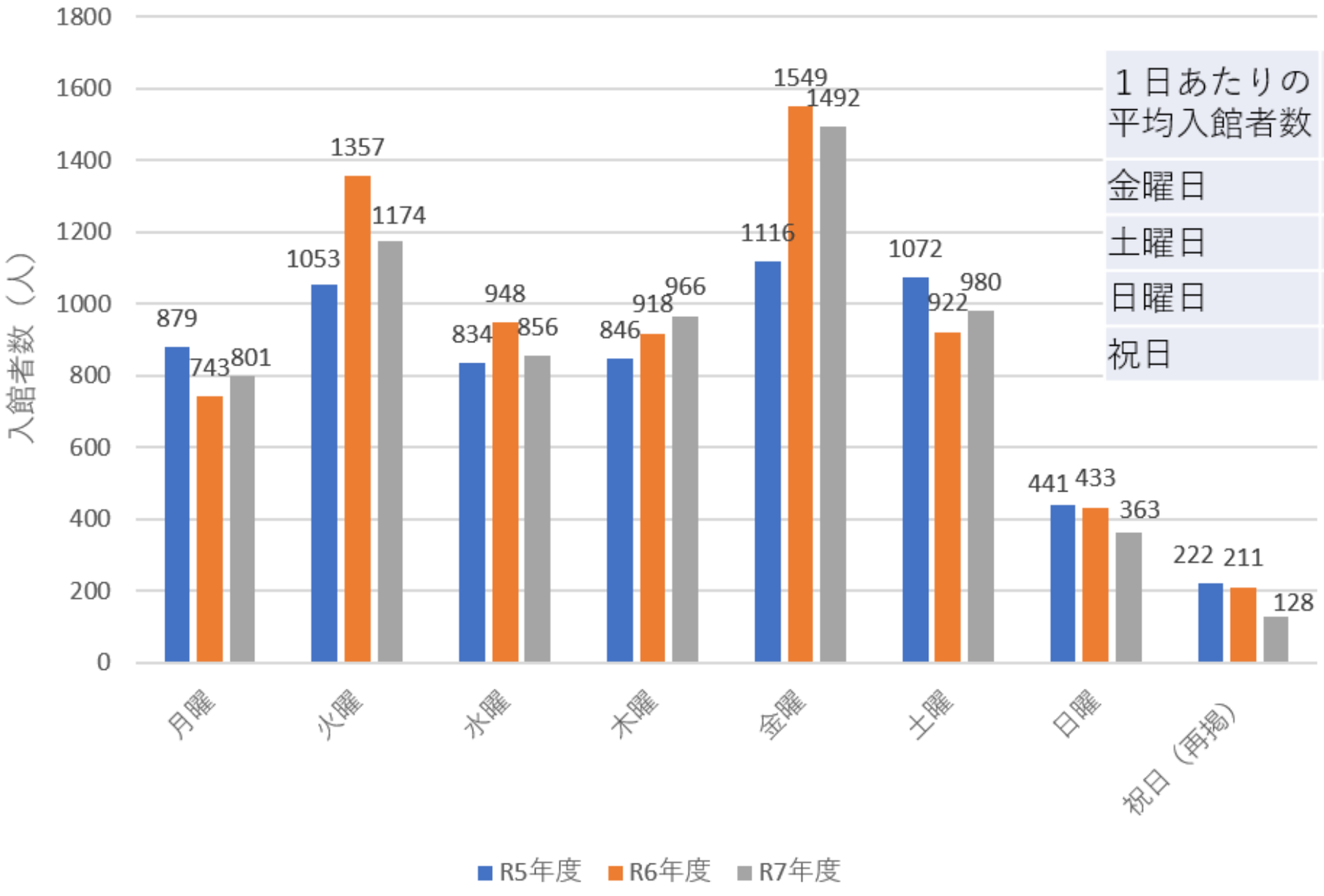
1-1. センターの利用実態

（1）年度別入館者数の推移（H26～R7年度）



1-1. センターの利用実態

（2）曜日別入館者数の推移（R5～R7年度）



１日あたりの平均入館者数	R5年度（人/日）	R6年度（人/日）	R7年度（人/日）
金曜日	21.9	30.4	28.7
土曜日	20.6	17.7	18.8
日曜日	8.5	8.5	7.1
祝日	13.9	11.1	7.5

・現在の開館時間

＜平日＞

午前8時45分～午後10時

<土・日・祝日>

午前8時45分～午後5時30分

<休館日>

年末年始　12/29～1/3

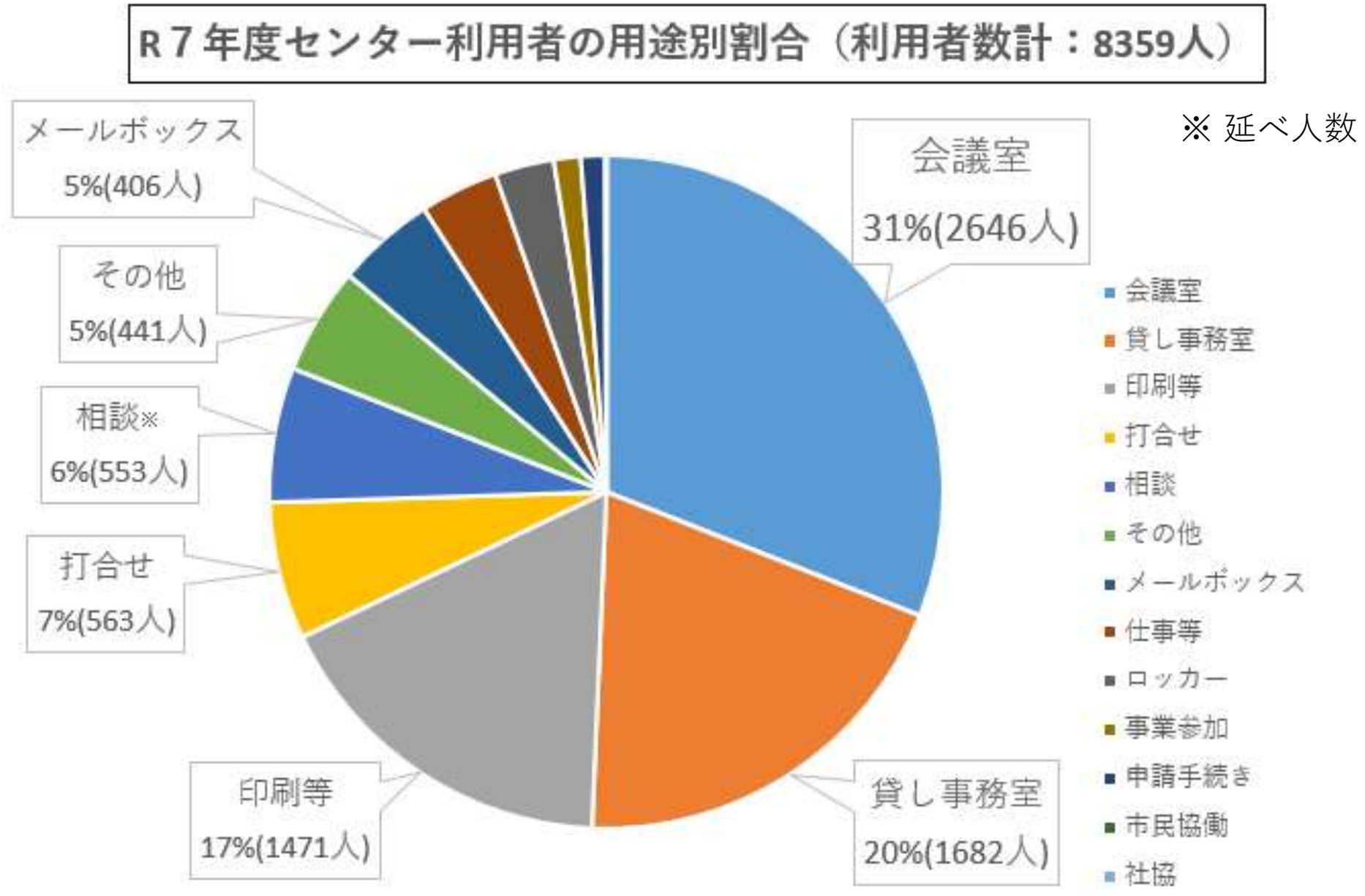
～グラフから読みとれる傾向～

・平日は特に金曜・火曜が多い

・土曜日の入館者数が多い

・日曜日、祝日の利用者の減少

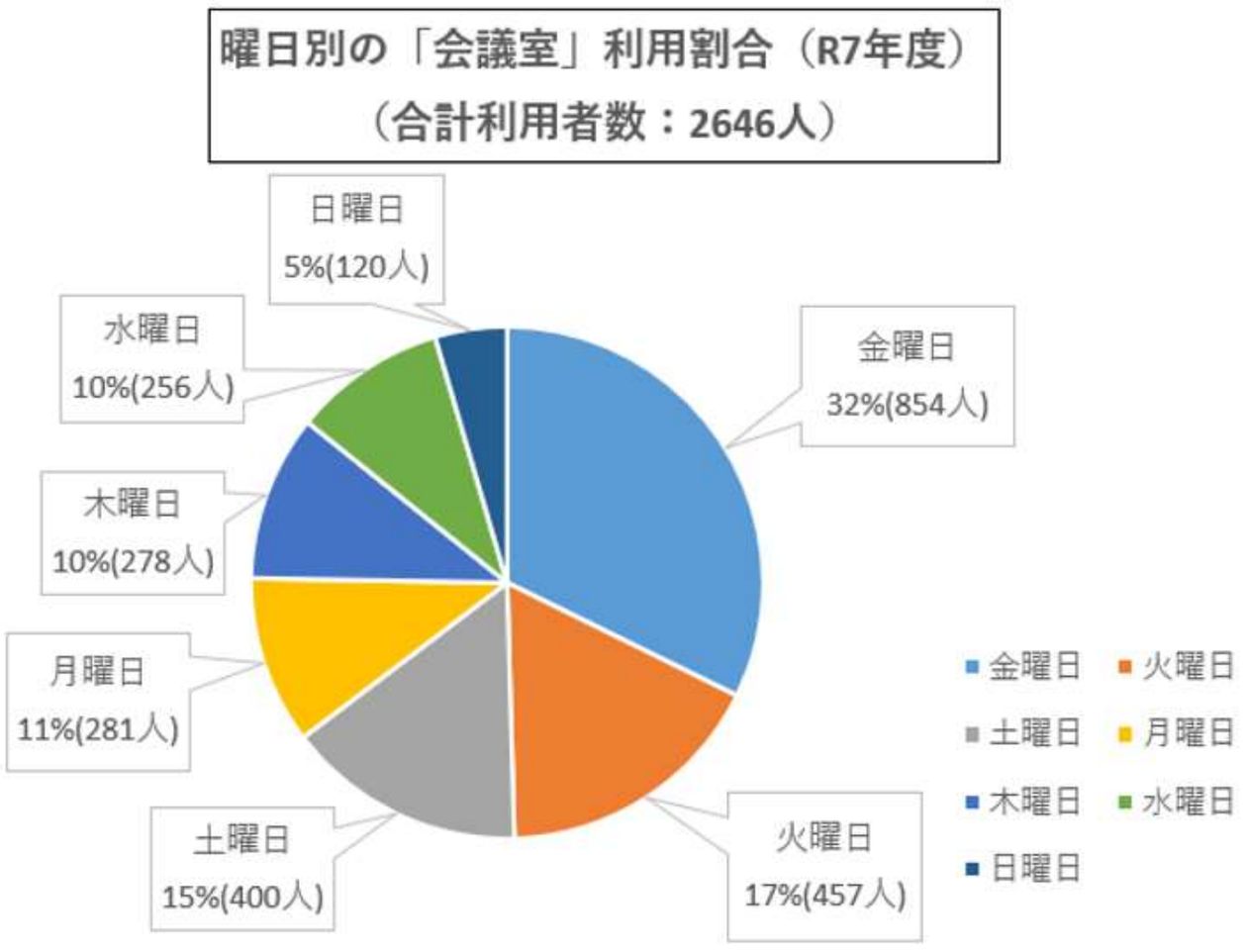
（3）センター利用者の用途別割合（R7年度）

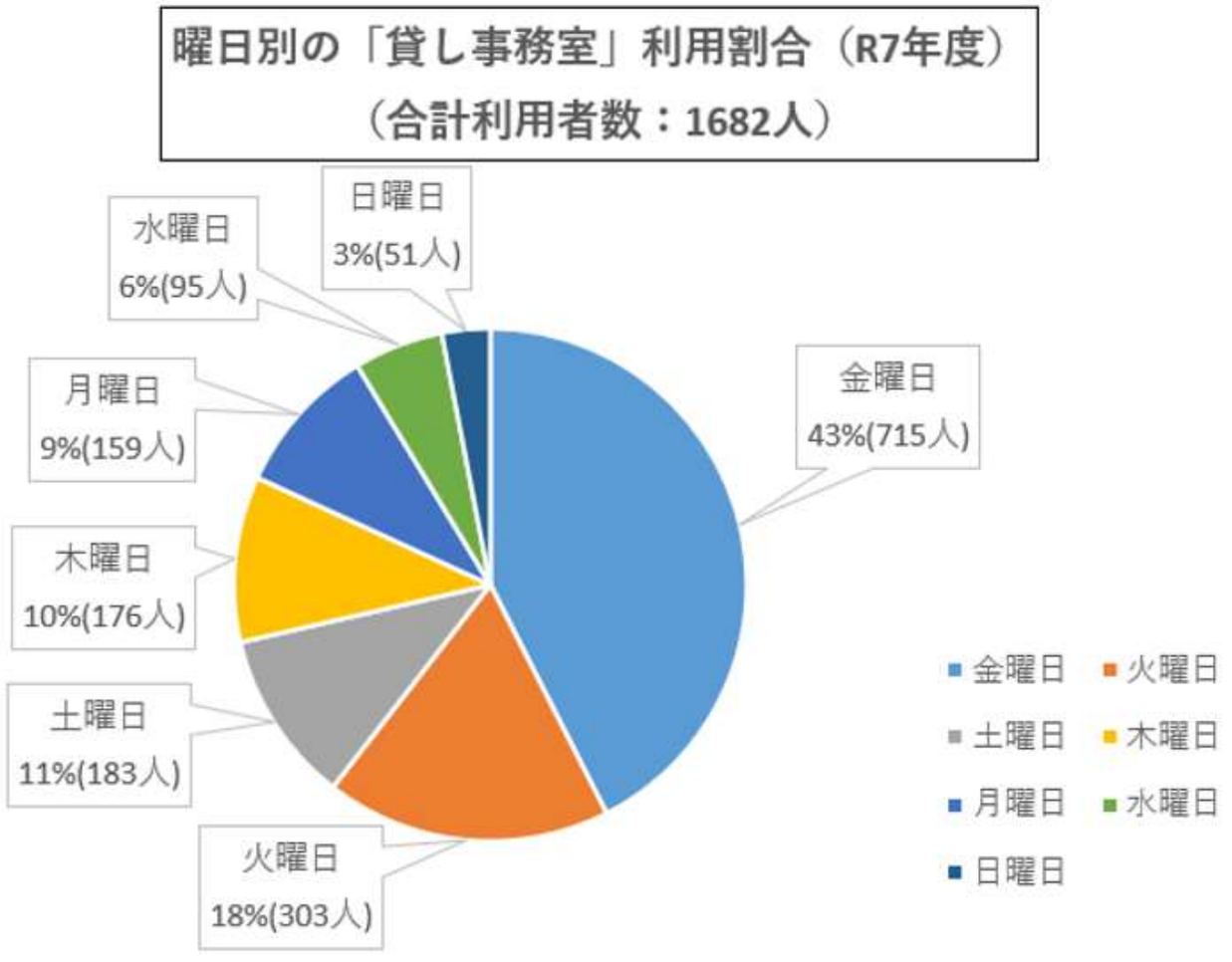


～グラフから読みとれる傾向～

- 「会議室」と「貸し事務室」の利用で約半数を占めている。
- 「印刷等」の利用は1人での利用が多いが、3番目に多い割合である。

（4）曜日別の会議室・貸し事務室利用割合（R7年度）



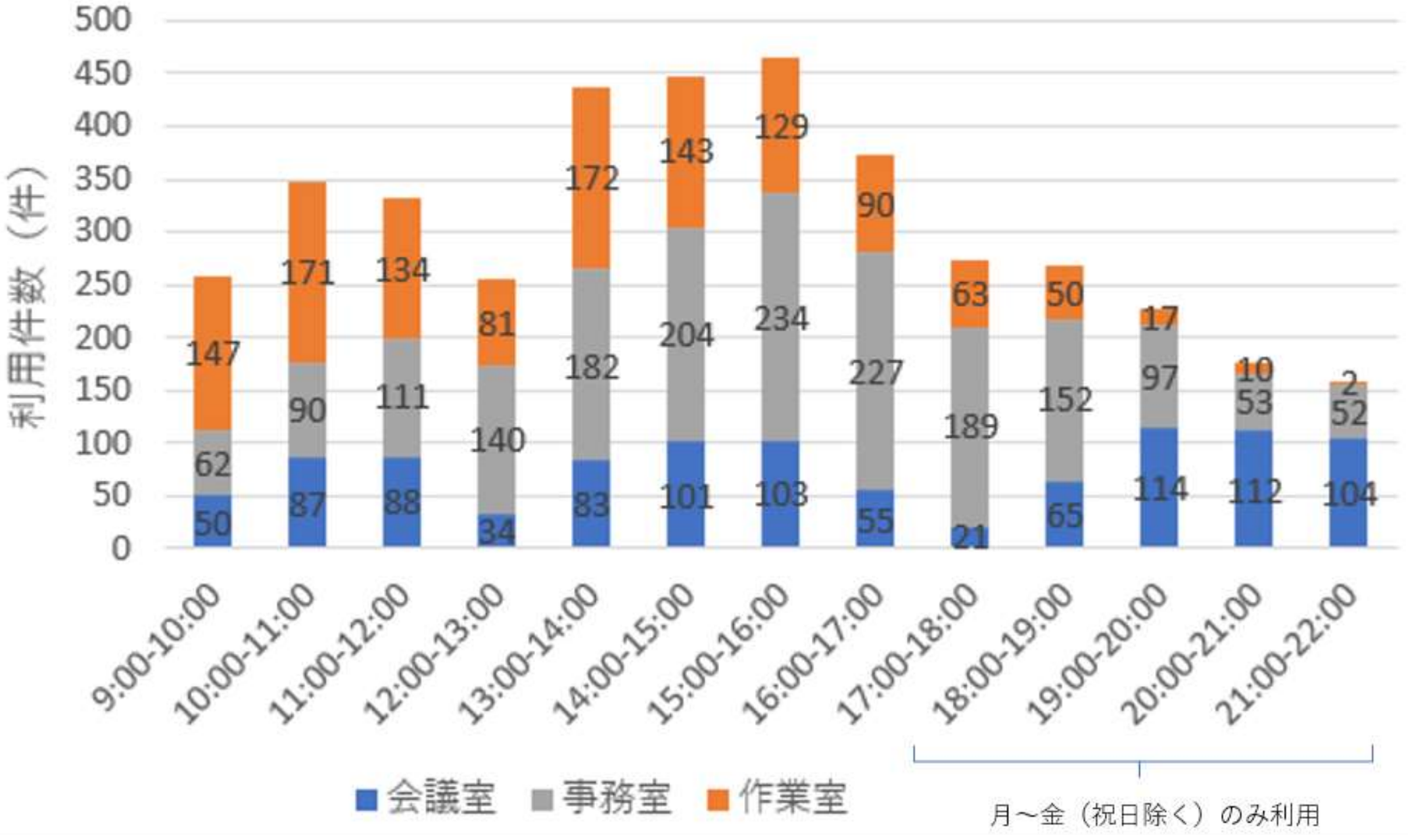


～グラフから読みとれる傾向～

- 「会議室」、「貸し事務室」ともに金曜日の利用割合が最も高く、日曜日の利用割合が最も低い。
- 土曜日は開館時間が平日よりも短いが、利用割合が高い。

1-1. センターの利用実態

（5）R7年度時間帯別利用件数（ 会議室・事務室・作業室 ）



- 午後15:00-16:00がピーク、21:00-22:00が最低
- 夜間の利用者は限定的（特に21時以降）

1-1. センターの利用実態

（6）総括

- 日曜日、祝日の利用者が他の曜日と比べ、利用者が少なく、年々減少している。
- 平日は特に金曜・火曜が多い
- 日曜日、祝日の利用者の減少
- 「会議室」、「貸し事務室」ともに金曜日の利用割合が最も高く、日曜日の利用割合が最も低い。
- 土曜日は開館時間が平日よりも短いが、利用割合が高い。
- 夜間の利用者は限定的である。（特に21時以降）

1-2. 開館時間・休館日の変更案について

条件			開館時間			開館時間（年間）
			開始時間	～	終了時間	
現在	休館日：年末年始12/29～1/3	平日	8:45	～	22:00	4243:30
		土・日・祝日	8:45	～	17:30	
案１	平日の開館時間を9時～21時、 土・日・祝日の開館時間を9時～に変更	平日	9:00	～	21:00	3910:30
		土・日・祝日	9:00	～	17:30	
案２	日曜日を定休日に設定、 開館時間はそのまま	平日	8:45	～	22:00	3806:00
		土・祝日	8:45	～	17:30	
案３	開館時間の変更＋日・祝を定休日に変更	平日	9:00	～	21:00	3516:00
		土	9:00	～	21:00	
案４ **（案１＋案２）**	開館時間の変更＋日曜日を定休日に変更	平日	9:00	～	21:00	3485:30
		土・祝日	9:00	～	17:30	

市民協働推進室として検討している案 ⇒ **案3**

（検討理由）

1．休館日変更について

・日曜日、祝日の利用者が他の曜日と比べ、利用者が少なく、年々減少している。
・県民ボランティアセンターや市民会館など類似施設での活動が可能である。
・日祝は市民活動がランタナではなくそれぞれの活動場所で行われることが多い。

2．開館時間変更について

・夜間の利用者が限定的（特に21時以降）
・夜間の時間帯は仕事と両立しながら活動する市民にとって必要な時間帯であり、利用者への影響を最小限とする。
・土曜日は需要が見込めることから、時間を延長する。
・開館時間や休館日変更によって指定管理委託料の削減となる。

目次

○　はじめに　[10分程度]
・　前回(第1回市民力推進委員会)の振り返り　　…P3
・　市民力推進委員会の今後のスケジュール　　…P4

1．市民活動センターの開館時間・休館日変更の検討について　[30分程度]
　1-1．センターの利用実態　　…P6～11
　1-2．開館日・休館日変更案について　　…P12

2．市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて　[75分程度]
　　…P14～15
　2-1．「5つの重点テーマ」の現状と課題　　…P16,別紙1
　2-2．市民活動の現状　　…P17,別紙2
　2-3．グループワーク　[50分程度]　　…P18～19

3．市民活動支援補助金の審査結果について(報告)　[5分程度]
　　…P21

2. 市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて

前回の議題
(1)委員長・副委員長の選出について
(2)審査部会の設置及び部会委員の指名について
(3)市民力向上と協働の推進の方向性について

(3)市民力向上と協働の推進の方向性について

主な意見

● 資料・データについて
- 定量化されたデータが不足
- 現状把握が困難
- R4以前の状況も踏まえた変化を示すべき
- マッチングフェアの具体的な実績
- 総合計画(目標値)がない

5つの重点テーマ	主な取組内容	主な成果	課題
企業との協働	【市民協働推進室】 ・企業含む多様な主体へリーダーの想いを届ける動画制作及びマッチングイベントの開催 【市民活動センター】 ・交流会や体験会における企業との連携	・マッチングイベントや交流事業等を通じた新たなネットワークの創出	・企業と市民活動団体双方の具体的なニーズの把握 ・市民活動団体と企業等が継続的につながるしくみの構築
団体や人の巻き込み	【市民活動センター】 ・月例座談会、各種テーマ別交流会 ・若者向け交流プログラム ・中間支援専門員による相談会 ・長崎市の市民活動団体が申請できる補助金・助成金を取り扱う団体同士の意見交換会	・参加者満足度、講座受講後の理解度の向上 ・新規参加者の確保 ・団体間の新たなつながりと交流の促進	・地域活動や市民活動への参加意向割合は85%に対し、参加している割合は62.8%と乖離している。（R7市民意識調査より）関心がある人材を巻き込むためにハードルを低く参加しやすい工夫が必要
財政基盤の強化	【市民協働推進室】 ・市民活動支援補助金制度の見直し 【市民活動センター】 ・クラウドファンディング、休眠預金活用助成制度等の情報発信・個別相談 ・市内団体による補助金合同説明会の実施 ・長崎市内NPO法人経常収支調査報告書の作成・公開 ・市民活動団体向け助成金レポート発行 ・補助金の申請書の書き方等の支援	・資金調達や補助金申請など専門的相談に即座に対応可能 ・複数年にわたる合同説明会により団体の資金調達の知識向上 ・補助金合同説明会参加団体の申請件数が増加	・市民活動支援補助金の申請件数が伸び悩んでいる ・団体の規模や活動段階に合った財源が確保できておらず、持続可能な活動に苦慮する団体が多い
職員の意識の底上げ	【市民協働推進室】 ・4年次の所属長と係長を対象とした協働研修の継続実施 【市民活動センター】 ・市民活動センター職員のスキルアップ ・職員向け研修の開催支援	・庁内の協働件数が増加（R3比：+155件） ・地域や大学等と協働したセンターの事業展開	・市民と直接的な接点を持たない部門の職員に協働の重要性が十分に浸透していない
コロナ禍からの立て直し	【市民協働推進室】 ・補助金の各種申請書類のデータ提出化 【市民活動センター】 ・市民活動のオンライン化促進（対面・オンラインのハイブリット型） ・組織の人材確保や会員間のコミュニケーションを高める講座の開催	・参加形式の多様化 ・時間的な制約などで参加困難な層へもアプローチが可能 ・外部協力者の確保、内部のコミュニケーション力のアップ	・情報発信（SNS活用）や団体運営（Zoomによるオンライン会議）などデジタル化の対応に団体間の格差が生じている ・組織の人材確保については、活動への関心は高まる一方で、参加のしやすさや得られる満足感が多様化しているため、柔軟な参加形態など工夫が必要

2. 市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて

令和3年度市民力推進委員会からの提言

R3の提言
「重点テーマ」を
見直します

今後の市民力向上と協働の推進の方向性

現状と課題

R2.5 市民力推進委員会報告書からの抜粋

☞協働が自然と行われているという目指す姿については、まだ、到達の途上にある。

- ○市民活動に参加している市民の割合が少ない（29.5%）
- ○市民活動センター「ランタナ」の認知度が低い（16.2%）
- ○市民活動団体の課題
  特定役員への業務集中、活動資金不足、会員の高齢化…
- ○職員の協働に関する意識・認識不十分（6割協働経験なし）
- ○長崎市よかまちづくり基本条例の理解が不十分（4割知らない）
- ○協働相手の情報不足・理解不足
- ○市民活動団体が協働したことで「団体の活動が活性化した」「社会的信頼が高まった」
- ○市民活動団体が協働を希望する相手（複数回答可）
  「市民活動団体（60.4%）」「行政（58.4%）」
  「企業（31.7%）」「自治会など地縁団体（30.7%）」

- ●活動に取り組む市民の掘り起こし
- ●団体運営の継続性を高める
- ●「協働することが当り前」という職員の意識の醸成
- ●相互理解による協働の推進

新型コロナウイルスの感染拡大

活動を継承するための…

重点テーマ

- 企業との協働
- 団体や人の巻き込み
- 財政基盤の強化
- 職員の意識の底上げ
- コロナ禍からの立て直し

取組みの一例

＜企業との協働＞
・長崎市と民間企業等との協働による、地域や経済の活性化、公共サービスの充実に資する事業展開の推進
・市民活動団体等と民間企業等との協働の推進（交流会、マッチング、寄付意識の醸成）

＜団体や人の巻き込み＞
・市民活動センターにおいて、市民と市民活動団体とをつなげるマッチング・コーディネート体制の構築
・若者から受け入れられる伝習所に刷新するための事業展開を図る

＜財政基盤の強化＞
・市民活動団体の資金調達力の強化を図る（クラウドファンディング、休眠預金を活用した助成制度等の情報発信・個別相談・ふるさと納税制度の活用など）
・安定した経営を行うために、ソーシャルビジネスへの移行などに関する団体へのコンサルティングの充実を図る

＜職員の意識の底上げ＞
・職員研修の充実
・相互理解を図る環境づくり
（市民活動団体等と行政の意見交換の場の創出など）

＜コロナ禍からの立て直し＞
・With コロナを踏まえた新たな取組みに対する支援
・市民活動のオンライン化促進
・市民活動団体の相談対応強化

2-1.「5つの重点テーマ」の現状と課題

別紙1参照

「5つの重点テーマ」
・企業との協働
・団体や人の巻き込み
・財政基盤の強化
・職員の意識の底上げ
・コロナ禍からの立て直し

2-2. 市民活動の現状

現状

別紙2参照

・ランタナの登録団体数、入館者の推移
・ランタナの相談件数、内容分析
・ランタナ助成金レポート
・ランタナ経常収支調査

2-3. グループワーク

目的

市民力向上と協働の推進を図るための重点テーマ、
取り組み内容を設定するうえでの意見出し

2030年に目指す姿（長崎市第５次総合計画後期基本計画より）

多様な主体が市政への関心を持ち主体的かつ連携してまちづくりに取組んでいる

重点テーマ	主な取組内容	主な成果	課題

【次回】「市民力向上」と「協働の推進」を図るための重点テーマの見直し

頂いた意見を集約し、次回委員会で資料へ反映

2-3. グループワーク

市民力向上と協働の推進を進める上で

①うまくいっていること

②課題・もっとこうなったらいいなと思うこと

③取り組みたいこと・取り組んでほしいこと

目次

○　はじめに　[10分程度]
・　前回(第1回市民力推進委員会)の振り返り　　…P3
・　市民力推進委員会の今後のスケジュール　　…P4

1．市民活動センターの開館時間・休館日変更の検討について　[30分程度]
　1-1．センターの利用実態　　…P6～11
　1-2．開館日・休館日変更案について　　…P12

2．市民力向上と協働の推進のための重点テーマの見直しについて　[75分程度]
　　…P14～15
　2-1．「5つの重点テーマ」の現状と課題　　…P16,別紙1
　2-2．市民活動の現状　　…P17,別紙2
　2-3．グループワーク　[50分程度]　　…P18～19

3．市民活動支援補助金の審査結果について(報告)　[5分程度]
　　…P21

3. 市民活動支援補助金の審査結果について（報告）

令和8年9月10日 開催 市民活動支援補助金（スタート補助金・ジャンプ補助金）2次募集分審査結果

補助金種別	スタート	ジャンプ
団体名	一般社団法人全日本リトルペーロン協会	一般社団法人推し巡り協会
事業名	1人漕ぎリトルペーロン大会	NAGASAKI CREATORS 100
事業概要	長崎市野母漁港での1人漕ぎリトルペーロン大会の開催する事業。リトルペーロン4艇を使用し、100mを1人で漕ぎタイムを競う。年齢別のカテゴリー分けをして参加者の交流を図る。従来のペーロンとは違い少人数で参加出来るリトルペーロンは初心者が気軽に体験できるようにしている。チーム力の向上や興味を持った人が気軽に参加出来るので新規参入のきっかけ作りにしていきたい。また、1人漕ぎ大会で従来のペーロンでは不可能な個人の実力を伸ばす場としている。参加者は10代から50代の男女50人を目標としている。	長崎市内で活動するイラストレーター10名に、「長崎を描く。」をテーマとした新作イラストの制作を依頼する。 長崎の歴史、景観、文化、食、暮らしなどから、それぞれが感じる「長崎らしさ」を作品として表現し、完成した10作品を南山手レストハウスで約4週間展示する。 展示期間中はイラストレーターが交代で在廊し、来場者が作品を見るだけでなく、作者本人から制作背景や作品に込めた想いを聞ける交流機会を設ける。制作過程や展示の様子についてもSNSで発信し、作品・イラストレーター・長崎を一体的に発信する。
事業費総額	328,680円	405,000円
補助申請額	100,000円	303,000円
補助予定額	100,000円	303,000円
合計点	34.0点/40点満点	41.6点/50点満点
得点率	85.0%	83.2%
審査結果	**採　択**	**採　択**
審査会コメント	本事業の「1人漕ぎリトルペーロン大会」は、新たな視点を取り入れた魅力的な取り組みであり、ペーロン文化の継承や担い手育成につながるものであると評価できる。また、プレゼンテーションからも発表者の本事業に対する熱意が十分に感じられた。 一方で、今後、新たな参加者や担い手をどのように増やしていくかが課題として挙げられる。イベントの中で体験会を実施するなど、これまでペーロンに馴染みのなかった方も参加しやすい工夫を取り入れることで、新たな参加者の裾野が広がることが望まれる。 大会の開催だけで終わるのではなく、本事業をきっかけとして新たな担い手が生まれたと実感できるような、今後の継続的な活動と更なる広がりを期待したい。	本事業は独自性のある取り組みであり、行政ではできないような意義のあるものであると評価できる。また、事業の実現に向けた具体性も明確であり、発表者の本事業に対する熱意も十分に感じられた。 本事業を通じて、長崎で活動する様々なジャンルのクリエイターを広く知ってもらう機会になることが望まれる。また、特定のクリエイターを応援するファン層だけでなく、これまでクリエイターに関心のなかった一般の方にも認知が広がるような工夫が求められる。 一方で、事業費については事務局とも相談しながら、内容の精査をお願いしたい。 今回の事業を始めとして、今後、企業への積極的なPR に取組み、最終的な目標である100 人のクリエイターの参加が実現し、長崎をテーマとした文化振興につながることを期待したい。